

美術センター
久我記念館

「秦生 水墨画の世界」展

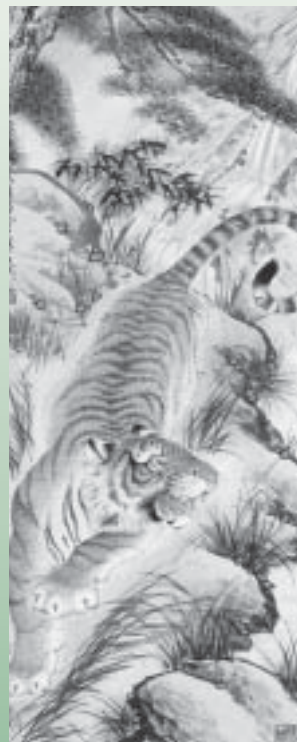
企画展のご案内

8月9日(木)～29日(水)
(月曜休館・13～15日は休館・入館無料)

作家の秦生さんは1946年に中国陝西省周至県で生まれました。天涯白雲と号しています。30歳を過ぎてから水墨画を学び、1996年5月に福岡に移住され、現在は、志免町在住です。県内各地で水墨画教室を開催し、日本各地で個展を開催するなど、精力的に活動されています。

今回の企画展は、山水画や美人画を中心に約60点の作品が並びます。会期中には水墨画の実演や、子ども対象のワークショップを開催します。

「水墨画を中国が育ててきた素晴らしい文化の一つとしてみなさまに紹介したいと思っています。また、今年は日中国交正常化35周年の年にあたります。展覧会を通じて日本と中国との文化交流が深まればと思います。」と、秦生さんはおっしゃっています。



真虎雄風
(※原題は中国語の簡体字です)



冬

略歴

- 1946年 中国陝西省周至県に生まれる
- 1989年 中国杭州にて個展開催
以降中国・日本・ドイツで個展開催
- 1991年 中国芸術研究院研究生部入学
- 1992年 中央美術学院中国画学部入学
- 1996年 福岡に移住
- 2007年 九州日中水墨画研究会
第9回交流展(アジア美術館)
- 中国美術家協会日本海外芸術創作センター 主任
- 九州日中水墨画研究会 会長

期間中イベント 水墨画実演

- ① 8月12日(日) 11:00～16:00
- ② 8月29日(水) 11:00～16:00

夏休み子どもワークショップ(アートに触れる夏)

- ① 8月26日(日) 13:30～15:30
 - ② 9月1日(土) 13:30～15:30
- ※詳細は子ども会育成会を通じて案内しています。

緑を守り育てる

タブの木



田原 正憲さん宅のタブの木

(須恵町自然教育林
推進協議会)

保存樹と保存樹林、今回はタブの木です。保存樹に指定されているタブの木は、上須恵区の田原正憲さんの屋敷内にあります。目の高さの幹周りは3・65メートル、樹齢は定かではありませんが、祖父の代からそこにあつたといひます。町道の拡幅工事で屋敷が狭められ、タブの木は、道路に一部はみ出した形で超然と立っています。道路沿いはブロック塀になっていますが、樹木のある部分だけブロック塀が途切

れていて、木は保存されています。タブの木は、クスノキ科の常緑高木で芳香を放つところから、昔の悪童にも人気があつたらしく、ひそかに皮をはいで匂いを楽しんでいたと告白する人もいます。また、戦時中は、木の根元に防空壕が掘られ、敵機からカムフラージュする役目も果たしてくれたといひます。さらに、タブの古木は小型のふくろう「アオバズク」の営巣地でもあります。毎年、初夏のころ東南アジアから渡ってきて巣をつくり、子育てをするといひます。

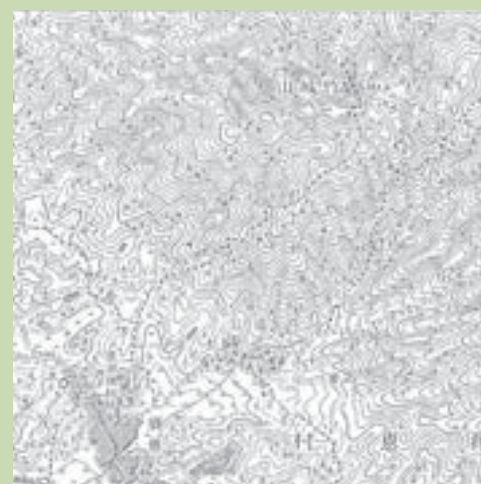


築山

考古学

19

高鳥居城の姿



106年前の地図

今から421年前の天正14(1586)年の8月25日、高鳥居城で合戦が行われました。立花山城の立花統虎と薩摩の島津氏のしんがりとして高鳥居城に立て籠もった、星野兄弟との合戦です。当時の状況が、今から約200年前の宝永6(1709)年に書かれた『筑前国統風土記』に書かれています。城に関しては、「其上にはかにこしらへたる城なれば、堀櫓堅固ならず。然れども東北はたやすくのぼり難き切所也。西は大手、南は二の丸にて、一町許地ひきく、竹木所々に生たり。」とあります。また、「奥の丸」という名前も出てきます。『筑前国統風土記』が、合戦から1世紀以上経ってから編纂されたことを考えると、歴史的事実と異なる部分もあるかと思われま

(啓)